

令和7年度 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

岩手大学教学マネジメントセンター、岩手大学教務委員会

（責任者名） 山本 欣郎

（役職名） 理事（教育・学生担当）・副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの修了要件は、「基礎数学入門（1年次前期）」、「データ分析演習（3年次後期）」および「統計的機械学習実践（3年次後期）」の合計3科目・5単位を全て取得すること、としている。令和7年度は、「基礎数学入門」に関して1年次学生231人全員が受講した。この学生の履修状況（履修申告から課題の提出等）については、本学が導入しているWeb Class（LMS）を通して、科目を履修している担当教員及び教学マネジメントセンター並びに農学部教務委員が把握することができるシステムとなっており、各授業科目の習得状況やプログラムの改善等について学内・学部内での検討・審議を行っている。
学修成果	プログラム構成科目のうち、令和7年度前期に開講された「基礎数学入門」に対するアンケートでは、学生が学習の効果を回答する項目を設定している。そのなかで質問「この授業の内容を理解できましたか」の質問では、「理解した」と「やや理解した」と回答している学生が81%となっており、「どちらともいえない」と回答した学生を加えると89%となった。一方、「理解できなかった」と回答した学生は2%であったことから、学修効果は高かったといえる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラム構成科目「基礎数学入門」では、授業評価アンケートにて「教員の講義はわかりやすかったですか」の質問に対して76%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。このことと前述した【学修成果】に記述したことを鑑みると、本指導プログラムの内容理解度は高いと判断できる。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	プログラム構成科目「基礎数学入門」では、授業評価アンケートにて「後輩等に推奨したいか」という質問は設定していない。学修の有用感や満足感を問う質問項目のうち「この授業を受講して新しい見方・考え方や知識を得たと思いますか」の質問では86%の学生が「そう思う」「やや思う」と回答しており、「この授業を総合的に見てどう評価しますか」については、85%の学生が「非常に良い」「良い」とポジティブに回答している。これらのことから「後輩等他の学生への推奨度」については高い水準になることが推察される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度以降の農学部入学生に対して本プログラムの修得は必修要件となったことから、1年次学生の本プログラムの履修率は100%であった。また講義するスタッフであるが、令和7年度以降、本プログラム講義を担当する教員について全学的に手厚いサポートが得られている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムの修了生が卒業する令和9年度以降に、企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意して外部の評価を受けつつ、その結果を踏まえてプログラムの改善に役立てる予定としている。</p> <p>岩手大学では、例えばNTTdocomo、岩手日報社等様々な産業界の企業と連携協定等を締結して教育・研究を推進している。また、本学農学部は卒業・終了後の進路として「公務員」が毎年20%程度を占めることから、地元の岩手県農林水産部とも意見交換を定期的に行うこととしており、本プログラムの農業への応用となる「スマート農業」についても議論を始めている。また進路として民間に就職する学生も40%程度であることから、NTTdocomoとの連携を活かして、一部試行的にデータサイエンスに関する講義も担当頂いており、産業界からの視点を含めた内容を取り入れている。今後は、このような多くのチャンネルを通して、産官学の視点を含めた本プログラムのPDCAを推進していく予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>プログラム構成科目のうち、令和7年度前期に開講された「基礎数学入門」に対するアンケートでは、学生が学習の効果を回答する項目を設定している。そのなかで質問「この授業に興味をもてましたか」、「この授業に興味をもてましたか」の質問では、「もてた」と「ややもてた」と回答している学生がそれぞれ38%と36%となっており、ポジティブに回答した学生は多い。「基礎数学入門」は要素1-6のみを満たす科目であり、今後実践的な数理・データサイエンス・AIに関する科目を履修することで「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることができると推察される。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>プログラム構成科目「基礎数学入門」のアンケート調査の結果「教員の講義はわかりやすかったですか」については、「そう思う」と「やや思う」と回答している学生が76%となっている。今後はWeb Class (LMS) による事前資料配付等の充実を図るとともに、急速に進展する生成AI等を、科目「統計的機械学習実践」などで取り上げることを検討し、本プログラムの充実を図ることとしている。</p>